



## 在宅における医療用麻薬の患者・家族による管理について

医療用麻薬の主な効能や効果は、激しい疼痛時における鎮痛、鎮静、鎮痙であり、特に鎮痛効果は、癌による疼痛のある患者において痛みを緩和することができます。近年は、在宅療養をしながら医療用麻薬を使用している患者も増えていきます。尚、在宅では、医療従事者の観察が行き届きにくい状況での薬剤管理となります。そのため、医療従事者の訪問や外来診察では、患者や家族、介護者への説明も含めて支援を行う必要があります。

### <在宅での医療用麻薬の管理や注意点>

- ①薬の時間や量、副作用の観察について説明を行う。又、服薬記録表への記載を促す。
- ②患者の日常生活動作や生活リズムに合わせた確実に簡単な服薬方法を検討する。
- ③休日に薬が不足することがないように準備する。
- ④小児やペットの手が届かない場所に保管する。
- ⑤医療用麻薬は他人に流用しないこと、又、誤って他人が服用した場合は、速やかに医師や看護師、薬剤師に連絡するよう説明する。
- ⑥使用しなかった麻薬は、交付を受けた医療機関や調剤薬局に返却するよう説明する。
- ⑦薬の相談や緊急の連絡など、患者や家族が医療従事者に連絡できる窓口(かかりつけ医師、かかりつけ薬剤師、訪問看護師、ケアマネージャーなど)を明らかにする。

医療用麻薬は、癌による疼痛を緩和することで、患者が安楽に日常生活を過ごせることにつながります。又、疼痛が増強すると薬剤の量が増えたり、薬剤が変更になる場合もあります。患者の変化を早期にとらえ、適切な薬が投与できるよう、医師や看護師、薬剤師、家族、ケアマネージャーなどが連携を密に行う必要があります。



### [出典・参考資料]

医療用麻薬適正使用ガイダンス 厚生労働省医薬・生活衛生局 監視指導・麻薬対策課